

(6) クローゼット島北漁場

昨年に比し暖水の南下弱く漁場の熟し方も遅く、鯨資源は半減していたが長須鯨は昨年より多く、白長須(ビグミー)が増えたのが目立つた。2回南丸と競合反復操業の為忽ち漁場枯れ、新入りも少いので東側の長須漁場に移る。

2月9日~23日 捕獲 F62 Sei275

(7) クローゼット島東側より85°E(45°S~47°S)漁場

クローゼットの東側にて長須鯨発見多く小型鯨も相当混り選鯨捕獲したが此の鯨は一時的なものでその後動いて少なくなつた為東進移動操業とした。途中まだ捕獲枠の残多いので反復操業を試みたが2日目は少く資源的に多いものではなく補充はあまりない様に思われる。鯨も少し発見あつたが性質悪く捕獲困難であつた。

ケルゲレンの北を通り87°E迄水温8~10°C線に長須鯨ボツボツ続いたが特に78°E線は南からの補充があり反復操業出来た。

最後に85°Eに至り3月13日捕獲終了した。

2月24日~3月13日 捕獲 F236 Sei14

今年の操業は北側(50°S以北)に於いては暴風圏型で強風の日多く南側長須鯨漁場にては例年になく好天候に恵まれた。

此の海域に於ける資源は鯨は数年の連続操業で半減したが長須鯨は50°S以北に於いても相当発見あり資源は豊富であると見られた。

質 疑 応 答

(飯田) 捕獲制限はしたか。

(齊藤) 日数的には、ナガスクジラの捕獲制限が多かつた。

(飯田) 日水では、捕獲制限はどうか。

(荒井) ほとんどナガスクジラで実施した。

3 第23次南極捕鯨操業概要

飯 田 陸之助
(極洋捕鯨株式会社)

22次南鯨と同じ程度に発見頭数はあつたが、ニュージーランド東方海域におけるクジラは移動が速かつた。

163°W付近では、冷水の張り出しが強く、その海域にクジラの分布密度高く、そして昨年に比較し大型であつた。なお、マグロの群にも遭遇して海がニギヤカであり、マッコウクジラも多かつた。

ニュージーランド西側のタスマン海の南では、低気圧多く操業が困難であった。

次に、今漁期の気象状況は昨年と比較し、太平洋全域にわたりガスが多く、さらにガスの西側は低気圧の発生海域となつていて、気象条件が悪いのには苦労した。

今漁期、昨年イワシクジラの捕獲を行なつた海域（タスマン海）でマグロ群を発見し、またニュージーランド東側においてもマグロ群、クチナガサンマ（南半球産サンマ）を発見し、さらにその付近で室戸のマグロ漁船が操業していたことを、クジラ以外の記録ではあるが、報告しておく。

質 疑 応 答

（宇田） ロス海まで暖水がみられたとのこと。氷の分布、海況等過去と比較して変つたことはないか。

（飯田） 良く分らないが、ロス海の形状で暖水が南下していた。

（小副川） タスマン海のイワシクジラは、今漁期は大型と言ひすが、22南鯨と23南鯨の鯨が同じグループのものか否かの判断資料にしたいので、昨年度との体長差を教えて欲しい。

（飯田） 22南 45フィートにモード（3極洋）

48-49フィート（3日新）

23南 48-49フィート（3極洋）

（小副川） ブーゲンビル諸島付近でイワシクジラの発見はなかつたか。

（飯田） マッコウクジラを発見した。

（土井） 鯨の足が速いということはどういうことか。資源量が少なくて仲々発見しにくいために足が速いというのか、本当に速いというのかその点を教えて欲しい。

（飯田） 海域により異なる。

（川島） 海況変化に伴う移動が速いということである。

4 南極産イワシクジラの餌料について*)

河 村 章 人
（鯨類研究所）

1 はじめに

近年の南極産ナガスクジラ資源の減少にともなつて、イワシクジラの捕獲が増大する傾向にあり（Gambell, 1968参照）、特に1963/64漁期以降に顕著となつた。捕獲対象鯨種の変遷は必然的に主要漁場の北偏、すなわち低緯度化をもたらし餌料生物の種類にも従来にみら

*) 本稿は昭和44年10月「第2回海獣談話会」（東海区水産研究所）および昭和44年10月「日本海洋学会秋季大会」（名古屋）において一部発表した。